

目次

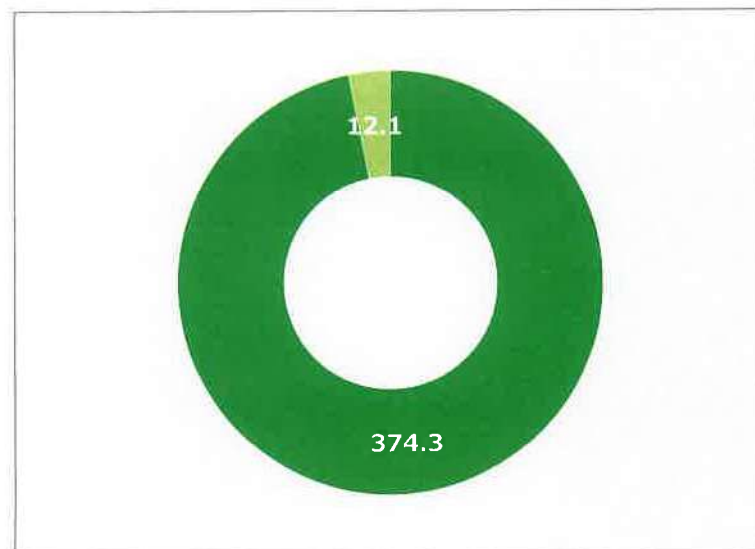
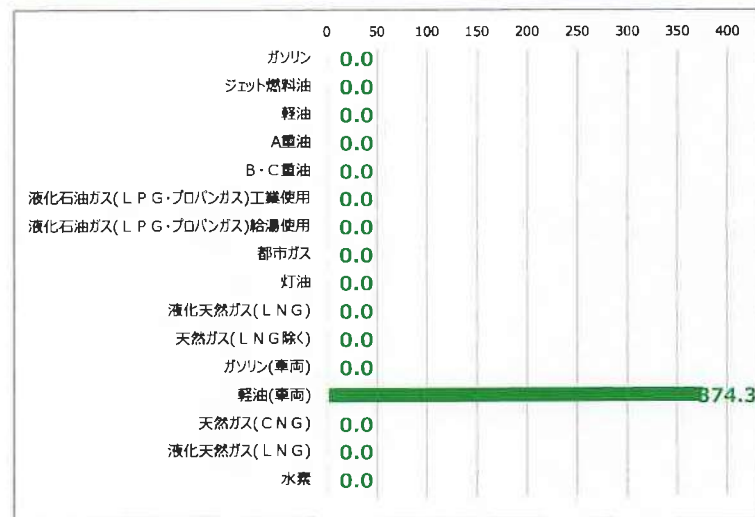
- 1. 排出量算定概要**
- 2. 算定結果**
- 3. 目標設定**
- 4. 排出削減について**

排出量算定概要

算定の目的	株式会社名古屋銀行が提供する「サステナブル経営支援ローン」に伴う排出量把握と削減目標の設定 気候変動への取り組みにおけるリーダーシップ 今後予想される取引先対応		
支援内容	GHGプロトコル企業基準に準拠した排出量把握 削減目標の設定		
組織境界の設定	株式会社THライン / 国内拠点(関連会社は含めない)		
対象組織の範囲	対象組織の国内拠点		
対象とする温室効果ガス	CO ₂		
時間的範囲	2025	年度	(2025/03/01 ~ 2026/02/28)
運営境界の設定	Scope 1 : 直接的GHG排出・エネルギー起源のCO ₂ 排出のうち、燃料の使用のみを対象 Scope 2 : 間接的排出・電力の使用のみを対象		
削減目標	SBT目標設定 (Near-term SBT) 総量削減手法のうちScope1,2のみを対象にした削減目標		

算定結果

運営境界	活動	排 出 源	排出量(t-CO ₂)	排出割合
スコープ 1	事業活動	ガソリン	0.0	0.0%
		ジェット燃料油	0.0	0.0%
		軽油	0.0	0.0%
		A重油	0.0	0.0%
		B・C重油	0.0	0.0%
		液化石油ガス(LPG・プロパンガス)工業使用	0.0	0.0%
		液化石油ガス(LPG・プロパンガス)給湯使用	0.0	0.0%
		都市ガス	0.0	0.0%
		灯油	0.0	0.0%
		液化天然ガス(LNG)	0.0	0.0%
		天然ガス(LNG除く)	0.0	0.0%
	輸送機器	ガソリン(車両)	0.0	0.0%
		軽油(車両)	374.3	96.9%
		天然ガス(CNG)	0.0	0.0%
		液化天然ガス(LNG)	0.0	0.0%
		水素	0.0	0.0%
	合計		374.3	96.9%
スコープ 2	購入電力の使用	電力	12.1	3.1%
	合計		12.1	3.1%
スコープ1+2			386.4	100.0%



目標設定

■ 排出量削減目標

スコープ1およびスコープ2について、2030年までに **2021** 年を基準年として **42.0%** 削減する。

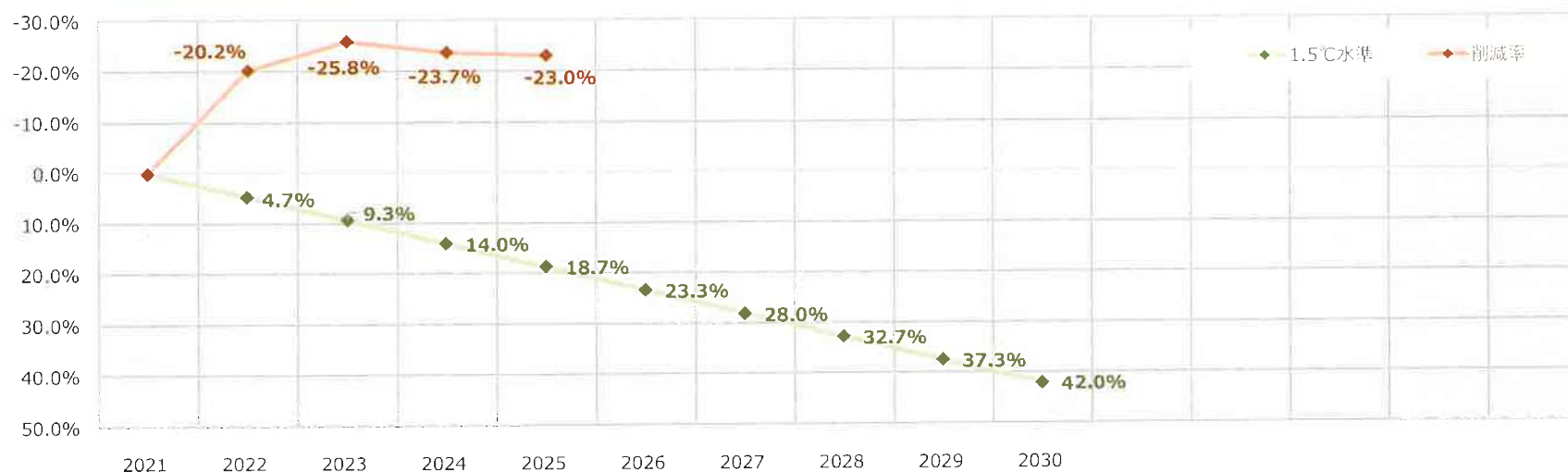
※設定した目標水準は、SBTの1.5℃目標に整合している。

■ 目標

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030			
スコープ1	293.5	279.8	266.1	252.4	238.7	225.0	211.3	197.6	183.9	170.2			
スコープ2	20.6	19.7	18.7	17.8	16.8	15.8	14.9	13.9	12.9	12.0			
合計	314.2	299.5	284.8	270.2	255.5	240.9	226.2	211.5	196.9	182.2			
1.5℃水準	0.0%	4.7%	9.3%	14.0%	18.7%	23.3%	28.0%	32.7%	37.3%	42.0%			

■ 実績

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030			
スコープ1	293.5	369.4	385.7	378.6	374.3								
スコープ2	20.6	8.1	9.7	10.0	12.1								
合計	314.2	377.5	395.4	388.6	386.4								
削減率	0.0%	-20.2%	-25.8%	-23.7%	-23.0%								



削減対策

今回の算定範囲について、一般的な削減手法をご案内いたします。

運営境界	活動	削減方法
スコープ1	事業活動	省エネ 排出係数の低いエネルギーへの移行 （例：ボイラーの使用燃料を重油からガスへ） 電化（例：給湯用ガスや暖房用灯油を電化）
	輸送機器	エコ運転 HV、PHEV、EV、FCVへの移行
スコープ2	電力	省エネ 排出係数の低い電力メニューへの切り替え 再生可能エネルギーの導入（再エネ設備の導入、PPAなど）

注意：削減を主張できないケースもあるので、専門家のアドバイスを受けることをお勧めいたします。

メモ

スコープ1について

スコープ2について

活動量(使用量)は横ばいだが、排出係数が上がったため、排出量が増加した